

【 企業動向調査（製造業）概況 】

2023年7月～9月期の企業動向調査（市内製造業96社）を行った結果、業況判断指数D Iの平均は▲ 34.9ポイントとなりました。

前期調査結果（2023年4月～6月期：▲ 20.0ポイント）と比較して14.9ポイント悪化しました。その他経営上の問題については、「中国の景気後退の懸念があり、ますます受注動向が見えなくなっている。」「物価の高騰が大変ですが、その中でも特に、電気、ガス代の高騰が経営の圧迫原因になっています。」などの意見がありました。

1. 今期調査結果は、「食品」はプラスポイント、「金属」、「一般機械」「電気機械」、「木材家具」、「その他業種」はマイナスポイントとなりました。

業種別の業況判断前期比D I

食品	42.9	（前期比：プラス	42.9）
金属	▲ 35.8	（前期比：マイナス	14.4）
一般機械	▲ 53.8	（前期比：マイナス	35.6）
電気機械	▲ 88.9	（前期比：マイナス	73.5）
木材家具	▲ 40.0	（前期比：マイナス	23.4）
その他業種	▲ 20.0	（前期比：プラス	15.7）

2. 次期予想D I（2023年10月～12月）

次期予想の平均は▲ 19.0ポイントで、今期調査結果の平均(▲ 34.9)より、15.9ポイント上回る予想となりました。

業種別の次期予想D I

食品	0.0	（今期比：マイナス	42.9）
金属	▲ 21.4	（今期比：プラス	14.4）
一般機械	▲ 53.8	（今期比：プラスマイナス	0.0）
電気機械	▲ 11.1	（今期比：プラス	77.8）
木材家具	▲ 20.0	（今期比：プラス	20.0）
その他業種	0.0	（今期比：プラス	20.0）

3. 経営上の主な問題点

「原材料・仕入品単価の上昇」が60.3%、「受注の減少」が57.1%、「人材不足（技術者等質的なもの）」が47.6%、「労働力不足（量的なもの）」と「同業他社との競争激化」が22.2%、「技術力の不足」と「納期の短縮」が14.3%、「製品販売価格の低下」が9.5%、「為替相場の変動」が7.9%、「金融難」が6.3%「人員過剰」が4.8%、「取引先の海外シフト化」が0.0%となっております。

企 業 動 向 調 査

【 2023 年 7 月～ 9 月 期 <3 期> 】

【 調 査 概 要 】

須坂市産業振興部産業連携開発課では、市内製造業の景気動向を探る手段として、年 4 回市内企業を対象にアンケート調査を実施しており、今回は 2023 年 7 月～ 9 月 期 <3 期>の業況について調査した。

【 調 査 実 施 要 領 】

実施時期 2023 年 11 月

対象企業 須坂市内または事業所を有する製造業企業 96 社

回答企業数 63 社 (回答率 65.6%)

【 調 査 結 果 】

自社業況判断 (D I = 好転 - 悪化)

前期比: 「好転」 11.1% (前回 15.4%)、 「悪化」 46.0% (前回 35.4%) という割合で D I は ▲ 34.9 となり、14.9 ポイント悪化した。

前年同期比: 「好転」 15.9% (前回 14.1%)、 「悪化」 52.4% (前回 46.9%) という割合で D I は ▲ 36.5 となり、3.7 ポイント悪化した。

次期予想: 「好転」 14.3%、 「悪化」 33.3% という割合で D I は ▲ 19.0 (前回 ▲ 16.9) となり、前期より若干の悪化を予想している。

受注引合 (D I = 増加 - 減少)

前期比: 「増加」 15.9% (前回 16.9%)、 「減少」 49.2% (前回 44.6%) という割合で D I は ▲ 33.3 となり、5.6 ポイント減少した。

前年同期比: 「増加」 19.0% (前回 18.8%)、 「減少」 52.4% (前回 48.4%) という割合で D I は ▲ 33.4 となり、3.8 ポイント減少した。

次期予想: 「増加」 17.5%、 「減少」 33.3% という割合で D I は ▲ 15.8 (前回 ▲ 25.0) となり前期より増加を予想している。

生産量 (D I = 増加 - 減少)

前期比: 「増加」 11.1% (前回 18.5%)、 「減少」 50.8% (前回 41.5%) という割合で D I は ▲ 39.7 となり、16.7 ポイント減少した。

前年同期比: 「増加」 14.3% (前回 16.9%)、 「減少」 55.6% (前回 47.7%) という割合で D I は ▲ 41.3 となり、10.5 ポイント減少した。

次期予想: 「増加」 15.9%、 「減少」 33.3% という割合で D I は ▲ 17.4 (前回 ▲ 24.6) となり、前期より増加を予想している。

原材料・仕入品単価 (D I = 低下－上昇)

前期比：「低下」0.0% (前回 1.6%)、「上昇」41.0% (前回 54.0%) という割合で D I は▲ 41.0 となり、11.4 ポイント低下した。

前年同期比：「低下」3.3% (前回 1.6%)、「上昇」62.3% (前回 69.8%) という割合で D I は▲ 59.0 となり、9.2 ポイント低下した。

次期予想：「低下」0.0%、「上昇」27.9% という割合で D I は▲ 27.9 (前回▲ 46.0) となり、前期より原材料・仕入単価の低下を予想している。

製品販売価格 (D I = 上昇－低下)

前期比：「上昇」17.7% (前回 27.0%)、「低下」4.8% (前回 11.1%) という割合で D I は 12.9 となり、3.0 ポイント低下した。

前年同期比：「上昇」38.7% (前回 41.3%)、「低下」3.2% (前回 12.7%) という割合で D I は 35.5 となり、6.9 ポイント上昇した。

次期予想：「上昇」12.9%、「低下」4.8% という割合で D I は 8.1 (前回 6.4) となり、前期より製品販売価格の若干の上昇を予想している。

資金繰り (D I = 好転－悪化)

前期比：「好転」7.9% (前回 3.1%)、「悪化」27.0% (前回 21.5%) という割合で D I は▲ 19.1 となり、0.7 ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」7.9% (前回 4.6%)、「悪化」31.7% (前回 29.2%) という割合で D I は▲ 23.8 となり、0.8 ポイント好転した。

次期予想：「好転」4.8%、「悪化」22.2% という割合で D I は▲ 17.4 (前回▲ 26.1) となり、前期より資金繰りの好転を予想している。

所定外労働時間 (D I = 増加－減少)

前期比：「増加」11.1% (前回 7.7%)、「減少」28.6% (前回 33.8%) という割合で D I は▲ 17.5 となり、8.6 ポイント増加した。

前年同期比：「増加」11.3% (前回 13.8%)、「減少」30.6% (前回 36.9%) という割合で D I は▲ 19.3 となり 3.8 ポイント増加した。

次期予想：「増加」14.3%、「減少」17.5% という割合で D I は▲ 3.2 (前回▲ 21.6) となり 前期より労働時間の増加を予想している。

収益率 (D I = 上昇－低下)

前期比：「上昇」9.5% (前回 7.8%)、「低下」38.1% (前回 43.8%) という割合で D I は▲ 28.6 となり、7.4 ポイント上昇した。

前年同期比：「上昇」11.1% (前回 10.9%)、「低下」47.6% (前回 48.4%) という割合で D I は▲ 36.5 となり、1.0 ポイント上昇した。

次期予想：「上昇」11.1%、「低下」31.7% という割合で D I は▲ 20.6 (前回▲ 37.5) となり、前期より収益率の上昇を予想している。

経営上の問題点（複数回答）

1位	原材料・仕入品単価の上昇	(→ 60.3%)
2位	受注の減少	(→ 57.1%)
3位	人材不足（技術者等質的なもの）	(→ 47.6%)
4位	労働力不足（量的なもの）	(→ 22.2%)
4位	同業他社との競争激化	(↑ 22.2%)
6位	技術力の不足	(→ 14.3%)
6位	納期の短縮	(↑ 14.3%)
8位	製品販売価格の低下	(→ 9.5%)
9位	為替相場の変動	(↑ 7.9%)
10位	金融難	(↓ 6.3%)
11位	人員過剰	(↓ 4.8%)
12位	取引先の海外シフト化	(↓ 0.0%)

※ 「↑」 前回の順位から上昇 「→」 前回の順位から変動なし
「↓」 前回の順位から下降

業種別自社業況判断／食品

前期比：「好転」42.9%（前回42.9%）、「悪化」0.0%（前回42.9%）という割合でD Iは42.9となり、42.9ポイント好転した。

前年同期比：「好転」57.1%（前回28.6%）、「悪化」14.3%（前回42.9%）という割合でD Iは42.8となり、57.1ポイント好転した。

次期予想：「好転」14.3%、「悪化」14.3%という割合でD Iは0.0（前回0.0）となり前期と変わらないことを予想している。

業種別自社業況判断／金属機械

前期比：「好転」7.1%（前回14.3%）、「悪化」42.9%（前回35.7%）という割合でD Iは▲35.8となり14.4ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」7.1%（前回7.1%）、「悪化」57.1%（前回50.0%）という割合でD Iは▲50.0となり、7.1ポイント悪化した。

次期予想：「好転」0.0%、「悪化」21.4%という割合でD Iは▲21.4（前回▲21.5）となり、前期より若干の好転を予想している。

業種別自社業況判断／一般機械

前期比：「好転」7.7%（前回18.2%）、「悪化」61.5%（前回36.4%）という割合でD Iは▲53.8となり、35.6ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」7.7%（前回18.2%）、「悪化」53.8%（前回36.4%）という割合でD Iは▲46.1となり、27.9ポイント悪化した。

次期予想：「好転」0.0%、「悪化」53.8%という割合でD Iは▲53.8（前回▲45.5）となり前期より悪化を予想している。

業種別自社業況判断／電気機械

前 期 比：「好転」0.0%（前回15.4%）、「悪化」88.9%（前回30.8%）という割合で
D Iは▲88.9となり、73.5ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」11.1%（前回7.7%）、「悪化」77.8%（前回69.2%）という割合で
D Iは▲66.7となり、5.2ポイント悪化した。

次 期 予 想：「好転」33.3%、「悪化」44.4%という割合でD Iは▲11.1（前回▲23.1）と
なり前期より好転を予想している。

業種別自社業況判断／木材家具

前 期 比：「好転」0.0%（前回16.7%）、「悪化」40.0%（前回33.3%）という割合で
D Iは▲40.0となり、23.4ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」0.0%（前回33.3%）、「悪化」60.0%（前回50.0%）という割合で
D Iは▲60.0となり、43.3ポイント悪化した。

次 期 予 想：「好転」20.0%、「悪化」40.0%という割合でD Iは▲20.0（前回0.0）
となり、前期より悪化を予想している。

Q10(1) 役員の登用状況（役員数）

A 「2名」34.9%、「3名」、「4名」とともに15.9%、「1名」12.7%、「5名」、「6名」
ともに4.8%、「0名」、「13名」とともに3.2%、「7名」、「10名」、「11名」とともに1.6%。

Q10(2) 内、女性役員数

A 「0名」54.0%、「1名」36.5%、「2名」1.6%、「3名」3.2%、「無回答」4.8%。

Q11 企業の奨学金返還支援制度（代理返還）制度はありますか。

A 「ある」、「今後、導入予定」とともに1.6%、「ない」90.5%、「制度自体を知らなかった」
6.3%。

Q12 インボイス制度が10月から始まりましたが、登録手続きは行いましたか。

A 「登録済み」100.0%、「登録手続き中」、「登録していない」とともに0.0%。

Q13 インボイス制度の状況や影響など

A 「システム改修、社内周知は完了しているが、取引先が誤ったインボイスを発行する場合もあり、

確認や対応のための事務作業が増加している。」、「インボイス制度を無視の企業があり、手間がかかります。」、「会社の接待等で飲食店を利用する場合は、登録されているお店を選ぶようになった。」、「下請けでよく理解していないものがある。」、「よくわかりませんが、今のところ影響はありません。」、「取引先によって対応が違うことや弊社もまだ手探り状態ではある。」、「いろいろな処理対応に追われてしまう感じです。始まったばかりで何ができて、何ができていないかわからなく不安でもあります。」、「大きな混乱もなく運用できている。」、「支払先について都度インボイスの確認を行うようになりました。」、「開始前の下準備等で色々戸惑ったが、開始後はそれほど混乱もなく、お得意先も理解を深めていたので、スムーズに移行は出来た。ただ、個人企業系の理解が浅く、適格請求書になっていない書面を送ってきていたりしていたので、もう少し理解を深めてほしい。」、「意味のないムダな制度だ。今すぐやめてもらいたい。」、「登録業者でない農家の消費税まで負担することになり、さらに厳しい状況になっている。」、「税率が10%の物だけなので、ほぼ混乱はない。」等。

Q14 2024年度の新規採用について、2023年度と比較した状況を教えてください。
(予定を含む)

A 「増やす」23.8%、「同程度」25.4%、「減らす」3.2%、「未定」38.1%、「無回答」9.5%。

Q15 その他経営上の問題についてご記入ください。

A 「パート社員の就労時間と賃金について厳しい状況になってきています。」、「受注量が増えない中、仕入れ価格が上昇し、資金繰りが厳しい状況が続いている。」、「半導体関連の回復が延伸状況。」、「全体の受注量の減少により、資金繰りの悪化が進んでいる。」、「今後の世界情勢がどうなるかで経営が変わってくるので不安です。」、「採用の売り手市場のほか、若手・中堅クラスの転職意識が年々高まっており、従来にも増して採用活動の工夫、社員定着の為の仕組みづくり等、人的資本経営への取り組みが重要な経営テーマとなっている。」、「採用難の時期もあり、30~40代従業員の層が薄い。中途採用募集するが、よい人材に出会えない。」、「原材料が高止まりし、下がる気配がない。価格転嫁できるものはいいが、なかなか全部というわけにはいかない。物流面でイスラエルとハマスによる戦闘の影響が出てくるかもしれないと聞く。」、「顧客の日本国内向け製品に中国ローカル企業の部品が採用されるようになり、価格競争が厳しくなっている。」、「国内納品が多い中小は厳しい。製品価格に資源材料高と賃上げが追い付かない状況。(利益圧迫)インバウンドも良いが国内製造の良さを失う過度な円安に頭を抱える状況。」等。

